

卒業研究

「古着が好き」から始まった、伝統と生活をつなぐデザインによる制作研究と展示

美術教育・千代田憲子

1. 授業の概要

小学校サブコースの卒業研究は、3年生からのゼミ配属により後期の小学校サブコース演習を経て卒業研究に入るが、デザイン実技の習得のために、一連のデザイン科目の履修を勧めている。デザイン科目は、1年時前期のデザイン基礎演習と後期のデザイン概論ののち、2年後期にデザイン1、3年前期にデザイン2となっており、デザイン3は4年前期に卒業研究につながる総合的なデザイン提案を行う授業である

本年のゼミ生は1名であり、中等教育コース(美術教育)と異なり履修の順序が前後するが、着実に身につけてきた。コロナ禍が続く今年度は、卒業研究の制作時間を十分確保するためにデザイン3を卒業研究の前半部分に充て、考えを整理してまとめ、デザイン提案のながれを再理解しながらプレゼンテーションパネルを制作する経験とした。コロナ禍での卒業研究による制作のあり方を探りつつ、自宅でも継続できる方法で取り組んだ。

2. 授業評価・授業研究の内容

「古着が好き」から始まった研究テーマの模索は、古着に手を加える方向から、刺繍の比較や布・糸・模様を展開を通して、刺し子の新たな魅力をドンザとして提案した。展示で実物を見たことが大きな転機と確信を生んだと思われる。

制作には十分な広さが必要だが、自宅でも継続しながらも、全体の確認は実習室で行い、制作過程では、グラフィックソフトのイラストレーターを活用し、プロジェクターによる投影で実物サイズの確認をするなど、針と糸による手仕事と共存させ、繰り返しながら質を向上させることが出来たと思われる。

展示空間と作品の関係を考えることも重要なので、会場の設置空間を考慮したプレゼンテーションとなるようA1サイズ6枚分を印刷用布3枚に出力し、縦長の柔らかな布の壁というイメージを演出した。

アンケート結果より抜粋(自由表記)

① 実習室の環境について

・仕立てや刺し子の際に広い机が使えて良かった。実習室で行うことと、自宅でできることを分けて制作を進めることが出来た。

② 進捗チェック時のA4シート提出について

・自分の考えを整理する材料になり、研究の方向性を確かなものにする支えになった。

③ 自身の制作研究の振り返り

・調査や比較検討などの作業で方向性を見失いそうになったが、その度に自分の思考を整理することが出来た。後半の制作時に卒業研究展のポスター制作と重なり、予定通りに進まず少し苦労した。

④ この授業に対する意見

・興味があって自分で調べたことに加えて、先生の持つ様々な情報などについて知ることによって思考の幅が広がった。
・デザインの考え方は今後仕事をするうえでも活用していきたい。

3. 総括

小学校サブコースの卒業研究を初めて担当し、本人の持ち味を発揮するよう努めたが、コロナ禍による最悪な状況にも対処出来るよう、多少安全策を取りすぎたかもしれない。



卒業研究展会場三浦美術館での展示の様子